

サポート

No. 192

令和5年3月27日発行

県教育庁特別支援教育課指導班

ありがとう 道川分教室

～県内重度・重複障害児教育を牽引してきた道川分教室が閉室します～



令和5年3月15日（水）、道川分教室として最後の卒業式と閉室式を挙行了しました。

卒業式では、高等部の3名が保護者等と国立病院機構あきた病院関係者に温かく見守られながら卒業証書を受け取り、笑顔いっぱい卒業しました。卒業生は、過去に就学猶予・免除であったため、学ぶ機会がなく学齢を超え、平成30年度に小学部へ入学した方々です。道川分教室ではこの3名を含め、これまで多くの学齢を超えた卒業生を送り出してきましたが、在学中、全員があふれる笑顔と意欲をもって活動しました。生徒たちからは学びに年齢は関係のないこと、そして学び続けることの大切さを教わりました。



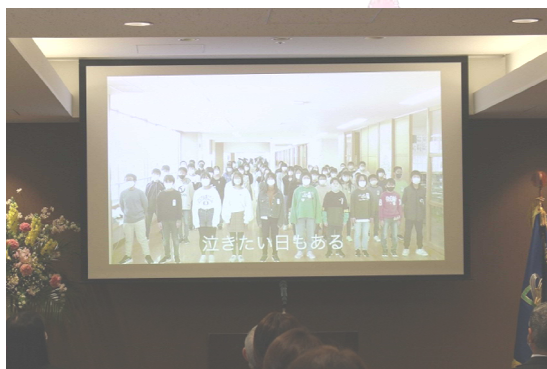
校長式辞

卒業式に引き続いて「道川分教室閉室式」を行いました。県教育委員会、国立病院機構あきた病院、県内特別支援学校長、旧職員等の方々64名に御参加いただき、道川分教室の19年の歴史に幕を下ろしました。校長式辞では、重度の心身障害のある子どもたちが、入院しながらも毎日のように学校へ通い学ぶことの意義や価値について、そしてこの教育が秋田きらり支援学校へ引き継がれ、これからも続いていくことが述べられました。また、閉室式に際し、道川分教室の開設以来共に学んできた、同地域の岩城小学校・岩城中学校、ゆり支援学校高等部の児童生徒が、今年度道川分教室で歌い続けてきた「いのちの歌」を動画で届けてくれました。これまでの交流活動の画像と

共に映し出される、児童生徒の歌う姿から、改めて温かい仲間、そして地域と共に歩んできた道川分教室であることを実感し、感謝とうれしい気持ちでいっぱいになりました。

道川分教室の閉室を迎え、在籍した児童生徒と共にコツコツと積み上げてきた教育実践が、新たな形で輝きを増し、多くの子どもたちの笑顔につながってくれることを願っています。

（ゆり支援学校道川分教室 教頭 佐々木 朋広）



「いのちの歌」～岩城小学校より～

祝 卒業

例年以上に暖かな春3月を迎え、県内の各特別支援学校では、卒業式が行われました。今回はその中から、視覚支援学校、秋田きらり支援学校、能代支援学校、栗田支援学校、ゆり支援学校の卒業式の様子を紹介します。

視覚支援学校

好天に恵まれた令和5年3月8日（水）、卒業式並びに修了式を挙行了しました。

高橋斉校長は式辞の中で、7名の卒業生・修了生に対し、それぞれの人柄や学校生活の様子について触れ、語りかけました。一人一人を細やかに見守る愛情の深さと温かい激励のこめられた言葉に、生徒たちはうなずいたり、笑みを浮かべたりしながら聞き入りました。校長から贈られたはなむけの言葉は、西郷隆盛の漢詩「耐雪梅花麗（雪に耐えて梅花麗し）」。人も梅も試練を乗り越えることで成長するという意味だそうです。

「別れの言葉」で、卒業生が話している最中にマイクのスイッチが切れてしまった場面がありました。すると、担任が生徒のそばに歩み寄り、はじめから話し直すようにと告げました。生徒はマイクを通して同じスピーチを繰り返したわけですが、翌日の職員朝礼で、校長が「臨機応変でよい判断だった。一人一人を大切にしようとする本校の姿勢が表れた象徴的な場面だった」と感想を述べました。高橋校長の特別支援教育への思いを職員一同が感じとった卒業式・修了式でした。

（視覚支援学校 教頭 小玉 幸子）



校長式辞



卒業証書授与

秋田きらり支援学校

令和5年3月10日（金）、令和4年度卒業式が執り行われました。今年度の卒業生は、小学部8名、中学部13名、高等部9名の計30名です。今年は保護者を2名まで参加可能とし、学校評議員や地域の代表の方などの御来賓においでいただくことができたこともあり、会場の小体育館はたくさんの方のお祝いの気持ちで満たされ、温かい空気に包まれました。

最初こそ緊張気味に入場した卒業生ですが、卒業証書授与ではそれぞれの得意な方法で堂々と返事をし、証書を受け取り、誇らしげに顔を上げて保護者の前を進みました。千葉雅樹校長の式辞では、特に「自ら伝える」ことの大切さについて話がありました。「自分の思いを周りの人に伝えることを大事にしてほしい」という熱いメッセージに、どの児童生徒も真剣な表情で耳を傾けていました。

また、今回の卒業式では、送辞や答辞で原稿をスムーズに読むことが難しい生徒が、iPadや音声入力装置を活用したり、ベッドサイドで参加した生徒の代わりに、アバターロボット Temi が卒業証書を受け取ったりするなど、様々な形で ICT を活用しました。より主体的な参加を可能にする工夫により個々の存在が際立つ、そんな心に残る式になりました。

（秋田きらり支援学校 副校長 近藤 千晴）



校長式辞



卒業証書授与
（ロボットの活用）

能代支援学校

令和5年3月10日（金）、能代支援学校では小学部2名、中学部15名、高等部11名の卒業式が行われました。

「威風堂々」のピアノに合わせて卒業生が晴れやかな表情で入場し、保護者、在校生、職員の見守る中、卒業生全員が壇上で佐藤玉緒校長としっかり目を合わせて卒業証書を受け取りました。

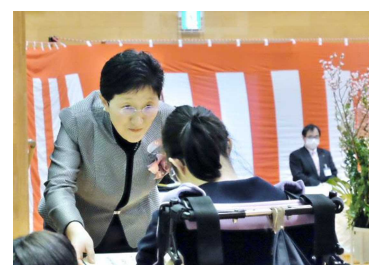
校長は式辞で「この卒業証書はこの世にたったひとつのものです。君たちがここでしっかりと学び、生きてきた証です」と卒業生のこれまでの頑張りを讃え、それぞれの学部思い出を振り返りながら、「皆さんの背中をずっと応援しています」と激励しました。

呼び掛け「旅立ちのことば」の中では、在校生が先輩への感謝の言葉とともに「未来を！」「拓け！」とエールを送り、卒業生は学校生活を振り返り、仲間との思い出や周囲への感謝、未来への希望と決意の言葉を力強く語りました。

3年ぶりに卒業生と在校生の素晴らしいハーモニーで奏でられた「旅立ちの日に」が式場に響き渡り、大変感動的な卒業式になりました。
(能代支援学校 教頭 伊藤 孝義)



校長 式辞



卒業証書授与

栗田支援学校

令和5年3月7日（火）、県立栗田支援学校では、午前小学部10名、中学部23名、午後は高等部普通科27名、総合サービス科5名の卒業式が行われました。以前は全校の児童生徒、職員、卒業生の保護者が一堂に会して行っていましたが、ここ3年間は二部制で行っています。内容もこれまで行われていた「呼びかけ」をステージ上での卒業生の「よろこびのことば」に替え、在校生はリモートで参加するなど、コロナ禍における最善の方法を模索してきました。

式辞では佐藤博司校長が校歌を引用して、「いつの日も明るく、さわやかに、おおらかに、すこやかに成長することを願っている」という言葉を贈りました。さらに、高等部を卒業する生徒に向けて「自分の力を信じ、新しい自分や新しい世界に出会うことを目指してください」と激励しました。児童生徒たちは旅立ちへの決意を新たに、真剣な面持ちで聞いていました。

門出には在校生や職員が垂れ幕をもって参加し、盛大な拍手とたくさんの激励の言葉が飛び交う中、照れながらも晴れやかでうれしそうな笑顔を浮かべた卒業生たちが巣立っていきました。

(栗田支援学校 教諭 齊藤 理香)



校長 式辞



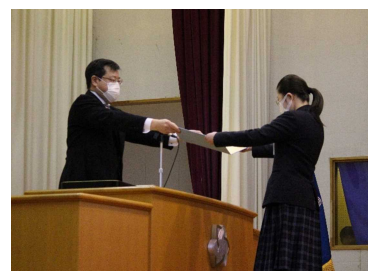
よろこびのことば

ゆり支援学校

令和5年3月10日（金）、春を迎える雨が時折降る中、ゆり支援学校の卒業式が行われました。少し緊張しながらも晴れやかな表情で入場した卒業生、その姿を保護者の方が感慨深く見守っていました。これまで練習を重ねてきた卒業証書授与では、一人一人がしっかりと高橋譲校長から卒業証書を受け取りました。また、3年ぶりに行われた児童生徒による「よろこびのことば」では、それぞれの頑張りの、楽しかった学校生活について語られ、充実した日々だったことが伝わってきました。3年間のコロナ禍での教育活動には様々な制限がありましたが、その一方で足元をしっかりと見つめ直し、本当に必要なことは何なのか、どのような工夫ができるのかを問う日々でもありました。

校長の式辞に、社会に巣立つ高等部3年生に向けて「困難なことも成長する機会と捉えて」との言葉があり、生徒たちは皆、真剣な表情で聞き入っていました。最後に「鳥海山に見守られ のびゆくいのち きらめいて……」と校歌が響き渡り、これからの明るい未来を心より願う一日となりました。

（ゆり支援学校 教頭 高田屋 陽子）



卒業証書授与



よろこびのことば

令和4年度 文部科学大臣優秀教職員表彰「社会に開かれた教育実践奨励賞」受賞

比内支援学校たかのす校が、「令和4年度 文部科学大臣優秀教職員表彰「社会に開かれた教育実践奨励賞」を受賞しました。

たかのす校は「地域をフィールドに、地域で学び、地域と学び、地域に貢献する学校」を目指し、地域学習「絆プロジェクト」を教育課程の中心に据え、通学路や周辺道路、老人介護施設などでのゴミ拾いや最寄りのバス停や駅舎の清掃に励むとともに、花を植栽したプランターを設置するなど、地域の一員としての自覚を高める取組を行ってきたことが高く評価されました。

比内支援学校たかのす校の教職員の皆様、おめでとうございます。



令和4年度 秋田県バリアフリー推進賞受賞

視覚支援学校児童生徒会が、「令和4年度 秋田県バリアフリー推進賞」を受賞しました。県内4駅構内及び各観光イベント会場等での点字ブロックの理解啓発に係るアナウンス放送など、児童生徒が、地道な活動を根気よく継続し、多くの人に点字ブロックの重要性を伝えていることが評価されました。

令和5年3月20日（月）に県庁3階第1応接室で表彰式があり、代表として高等部生徒会前会長 武藤 陽菜さんが神部副知事から賞状と記念品を受け取りました。

視覚支援学校の児童生徒会の皆さん、おめでとうございます。今後の取組にも期待しています。

